



新年のごあいさつ

会長 佐々木 均

令和8年の年頭にあたり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。皆様におかれましては、日頃より本会の活動に対し、温かいご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

昨年、本会は三団体（宮城県社会福祉協議会・宮城県福祉事業団・宮城いきいき財団）の統合から20周年という節目の年を迎えました。これまでの歩みを支えてくださった県民の皆様、関係機関の皆様、心より感謝申し上げます。

統合以来、「誰もが身近な地域で安心していきいきと暮らせる地域づくり」に取り組んでまいりました。次の10年、20年を見据えて社会の変化に柔軟に対応しながら、引き続き役員員一丸となって取り組んでまいります。

さまざまな困難を抱える方々が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、福祉分野のみの対応ではなく、地域住民が支え合い、多様な分野が連携・協働する地域共生社会の実現が求められております。本会では、宮城県や福祉関係団体等と共に構成する「宮城県地域共生社会推進会議」を中心に、経済・教育などさまざまな分野の関係者と連携しながら、その実現に向けた取組を進めてまいります。

また、地域福祉推進の中核機関として、地域福祉に関する各種事業を実施するとともに、高齢者や障害者（児）の入所施設等も運営しております。今年も、本会の経営理念に掲げる「豊かな福祉社会の実現」に向けて尽力してまいります。

新しい年が皆様にとりまして、幸せあふれる良い年になりますよう、心からお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。

高次脳機能障害と向き合いながら働く日々

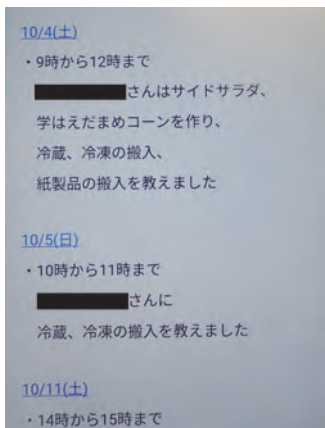
ながらチャレンジジクルーとしてザ・モール長町店で働く佐々木さんと、店長の市川さんにお話を伺いました。

佐々木さんは、週5日、午前9時から午後4時まで勤務しています。清掃する場所を曜日ごとに決めて、開店前の1時間で丁寧な清掃を行います。開店後は、サラダを作る準備やポテトなどの搬入作業を担当しています。

清掃の作業では、お客様が快適に店舗を利用できるよう、目に見えない部分まで丁寧に行っています。市川さんは「佐々木さんの細やかな仕事ぶりや、清掃の基準の高さに助かっています」と語ります。

搬入作業では他のクルーに指導する役割も担っており、身体を交えて言葉で伝えています。高次脳機能障害の特性として記

憶を保持することが難しいため、一日の作業後にはその内容を記録して、忘れないように工夫しています。教えることは「難しい」と話す佐々木さんですが、指導しているクルーが困っている場面などでは、佐々木さんが必要なサポートを行いながら丁寧に指導しています。



▲一日の作業内容の記録

趣味のラーメン店巡りがリハビリに、そして仕事の力に

佐々木さんの趣味はラーメン店巡り。発症前からのラーメン



▲特定非営利活動法人ほっぷの森に掲示しているラーメン日記の写真

好きが、現在もリハビリの一環として生かされています。休日は自転車で片道2時間かけて食べに行くことや、時には新幹線で出掛けることもあります。訪れた店はSNSで「ラーメン日記」として記録しています。

この趣味が仕事にも好影響を与えています。自転車移動で体力がつき、約15kgのポテトが入った箱も軽々と運べるようになりました。日々の積み重ねが、仕事の中でも生かされているのです。

「チャレンジジクルーが得意なことを生かして店舗で活躍できるよう、本人とのコミュニケーションや周囲への共有を意識的に行っています」と語る市川さん。日々の業務の中で、つまずきへの対応にも工夫を重ねています。

得意なことを生かしながら、つまずきを成長の機会に



特集

趣味が力に、仕事が生きがい「仙台にしむら」が支える「働く」かたち

高次脳機能障害がありながらも、自分らしく働く佐々木さんの物語

「誰もが役割を持ち支え合う地域共生社会の実現」に向けて、企業の果たす役割がますます注目されています。株式会社仙台にしむら（以下、「仙台にしむら」



▲左から、仙台にしむらマクドナルド ザ・モール仙台長町店 店長 市川亜美さん、チャレンジジクルー 佐々木学さん 特定非営利活動法人ほっぷの森 支援員 及川真由子さん（※取材は286西多賀店）

という。では、障害のある方を含む多様な人材が、それぞれの強みを生かしながら活躍しています。

仙台にしむらは、日本マクドナルド株式会社とフランチャイズ契約を結び、宮城県内で17店舗を経営しています。マクドナルドの店舗で働くアルバイトは「クルー」と呼ばれ、学生、主婦（夫）、シニア、外国人、障害者など、多様な背景を持つ人々が協力し合いながら働いています。障害のあるクルーは「チャレンジジクルー」と呼ばれます。主に調理や清掃、資材の搬入・整理などの業務に従事し、希望に応じて接客や販売にも携わることができま

す。今回は、高次脳機能障害による言語や記憶などの障害と向きあい



▲就労に関する支援を行う及川さんも交えて、定期的に面談も行います。

「うまくいかないときは、できるようになるまでタイミングや方法を慎重に考えます。すべてをサポートしてしまうと、本人の成功体験にならず、成長にもつながりません。だからこそ、手を離すタイミングや見守る姿勢がとても重要です」と市川さんは話します。

「私たちにもできないことはあ

ります。だからこそ、好き嫌いではなく『できない』と伝えられる環境はとても重要です」と市川さん。一人一人の特性を尊重しながらつまずきを成長の機会に変えていく工夫が、働く人の自信となり、職場全体の成長へとつながっています。

多様な人材が働くことで育まれる思いやり

市川さんは「多様な人材が働くことで、互いを思いやる気持ちが生まりました」と話します。忙しい時でも「一人一人が最大限のパフォーマンスを発揮している」と理解し合える環境が、店舗の雰囲気優しく、協力的なものに変えています。「自分も理解してもらえから、相手のことも理解しよう」という気持ちで、働きやすい職場づくりにつながっています。

働くことが人生を前向きに変える力になる

佐々木さんは「右腕が肩の高さまでしか上がらなかった」と、就職当初を振り返ります。現在では、肩より高く腕を上げられるようになっていきます。可動域が広がったことで左肩まで届くようにもなりました。右手でトングを持ち、左手で袋を広げながらパイやサラダを入れる作業も、今ではスムーズにこなせるようになっていきます。

「仕事は、いきがい」です」と語る佐々木さん。前述のラーメン店巡りなどの趣味が充実しているからこそ、仕事にも前向きに取り組むことができるといいます。働くことは、張り合いのある生活を送るための原動力。趣味と仕事の両立を通して、佐々木さんは自分らしい人生を歩んでいます。

プロフィール 佐々木 学 さん

発症からこれまでの歩み

2019年10月、自宅で娘二人と遊んでいた際に脳梗塞を発症。右片麻痺、全失語、意識障害と診断されました。「発症後3か月間は気持ち暗く、何を話されてもわからなかった。右手は箸も持てなかった」と当時を振り返ります。

4か月目に出会ったTMS治療(脳に繰り返し磁気を利用して電気刺激を与える治療)をきっかけに、「娘の名前を呼べるようになりたい」と懸命にリハビリを継続。現在は軽い右片麻痺がありますが、身振りを交えた日常会話が可能となり、スマートフォンのメモ機能やメールを活用しながら生活を送っています。

2023年9月から仙台にしむら(マクドナルド ザ・モール長町店)に勤務。趣味はラーメン店巡り。SNSで「ラーメン日記」を更新中で、目標は400店舗の紹介。将来の夢は、ラーメン本を出版すること。

